



7月～10月
国文祭・芸文祭
みやざき2020開催

▶「太鼓の祭典」のオープニングでは県内6団体72人が共演。ダンス公演「空想運動会」では小学生20人も参加。



「山の幸 海の幸 いざ神話の源流へ」をキャッチフレーズに、第35回国民文化祭・みやざき2020、第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会が1年の延期を経て開催されました。市内では「太鼓の祭典」やコンテンポラリーダンスによる「空想運動会」、「神話フェスティバルin青島」など、文化や芸術を楽しむ20のイベントが行われました。コロナ禍により一部中止になりましたが、オンラインでの出演など新たな取り組みにもチャレンジし、宮崎から文化芸術を全国へ発信しました。

11月 宮崎市フェニックス自然動物園50周年

1971年に開園した宮崎市フェニックス自然動物園が開園50周年を迎えました。50周年を記念し、人気動物を決定する「動物園総選挙」や「思い出動物園展」など、さまざまなイベントを開催しました。



◀動物園総選挙に65種の動物が立候補。1位に輝いたのはアジアゾウの「みどり」。アジアゾウに投票した人の中から20組に記念品が贈られました。



◀動物ものまね芸人で落語協会会員の江戸家小猫氏、総合地球環境学研究所所長の山極壽一氏を招いて「地方動物園の未来」と題し講演会やパネルディスカッションを開催しました。

5月 「GIGAスクール構想」始動



市内すべての小・中学校に高速大容量のネットワーク環境が整備され、5月末までにすべての児童・生徒にタブレット端末が整備されました。これからのAI時代を生き抜く力が身に付くよう、子どもたち一人一人への「個別最適化された学び」の取り組みが始まりました。

7月～9月 東京2020オリンピック・パラリンピック開催

1年延期となり直前まで開催が危ぶまれた東京2020オリンピック・パラリンピック。観客が制限されたなかでの開催となりましたが、アスリートの頑張りが感動や勇気を与えてくれました。



▶本市では8か国6種目の事前合宿が行われました。合計25個のメダルを獲得し、「結果の出るキャンプ地・宮崎」を示すことができました。

9月 豪雨災害

台風14号の接近に伴う豪雨で9月16日に土砂災害が発生。JR小内海駅北側斜面が幅約100m、高さ約70mにわたって崩壊し、多くの人の生活に影響がでました。



◀国道220号とJR日南線に大量の土砂が流入し、国道の一部が全面通行止めとなりました。



▶多くのボランティアが土砂の撤去や家財道具の運びだしを手伝いました。

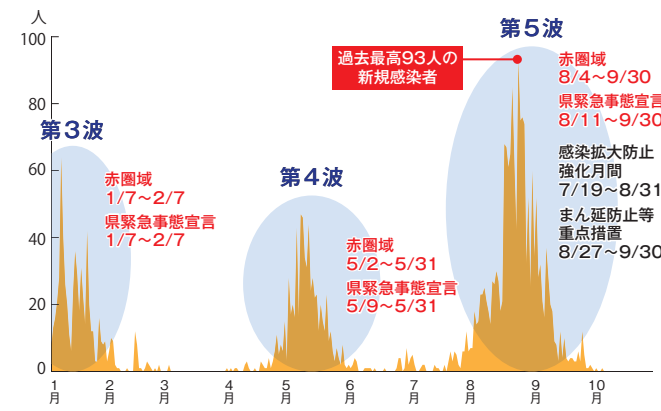


◀懸命な復旧工事により、34日ぶりに全面通行止めが解除されました。

特集1 2021年を振り返ろう

2021年は新型コロナウイルス感染症により行動が制限された1年。そうしたなかでも、本県では国文祭・芸文祭みやざき2020が、国内では東京2020オリンピック・パラリンピックが1年の延期を経て開催されました。本市の2021年を写真とともに振り返ります。2022年もより良い年になりますように。

1月～12月 猛威を振るった新型コロナウイルス

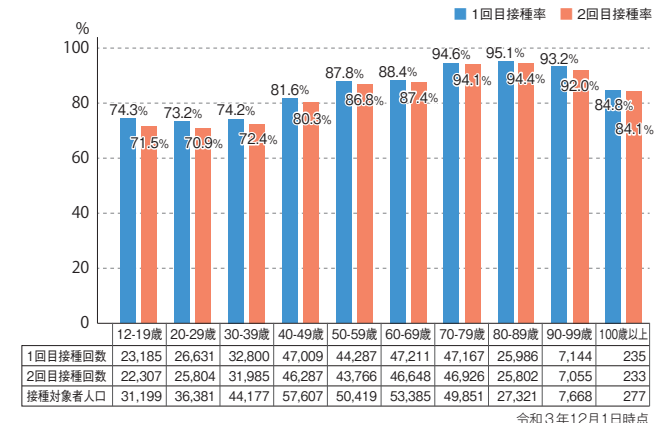


感染者数の推移

感染力の強いデルタ株が猛威を振るった第5波では、過去最多となる1日あたり93人の感染を記録。8月27日から9月30日までは本県で初めて「まん延防止等重点措置」が適用され、人流制限や、飲食店などに対しては営業時間の短縮や酒類提供などの自粛が求められました。



◀市総合体育館で集団接種を行いました（現在は柔道場で実施中）。



新型コロナワクチン年代別接種率

市民の皆さまに、ワクチン接種の趣旨をご理解いただき、接種の推進にご協力いただいた結果、11月末までに、接種対象者の8割を超える約29万7千人の方が2回の接種を受けられました。また、12～39歳の若い世代でも、7割を超える約8万人の方が2回の接種を受けられました。



◀市ではワクチン接種を受けた人の声を集めた動画を作成、接種を呼びかけました。

4月 新・小戸之橋開通

平成25年から始まった架け替えが終了。約7年半の工事や、地域住民による地域活性化イベント（ストリートフェスティバル）等を経て、全長506m、両側に歩道のある新・小戸之橋が開通しました。



2月 日本農業遺産認定



田野・清武地域の「大根やぐら」に代表される「干し野菜」と露地畑作の高度利用システムが、伝統的で重要な農林水産システムとして、国内の畑作地域で初めて「日本農業遺産」に認定されました。